

B-41 繊維集合体の物性 (Ⅲ)

—繊維の蒸れの要因について—

日本女大家政 南沢 明子

○竹中はる子

1. 集合体の物性について、マクロ的立場で種々検討を重ねて来たが、未解決な問題がかなり残されている。そこで、わたの基礎的な物性に関する研究を進めることにより、次第に微細構造を知る必要が痛感された。そして微細構造の実験結果を通して、従来注目されるところのなかった観点から、わた集合体について、幾つかの問題も明らかにされ、或は新しい解釈が可能になると考えた。従って、このような基礎研究の上に立って、より適切な応用がなされると思われた。今回は合繊の蒸れの要因について前回に引続き行なった実験結果を報告する。

2. 第1報で天然繊維と合繊の蒸れの原因を究べるための常温、及見掛上 R. H. 100% 中に放置した天然、合繊の状況を光学顕微鏡を用い水分付着の状態の異なる点を報告した。今回は電子顕微鏡を用い天然、合繊の吸湿状態の比較を行なった。

3. 従来電子顕微鏡では水分付着の状況を撮影することは殆んど困難とされていたがこの撮影に成功した。その結果吸湿による天然繊維の表面に非常な変化が認められ、これが吸湿能力との関係に極めて重大な因子であること、逆に合繊の蒸れの要因が認められた。そこで天然、合繊の適当な使用方法も考えられる。其の他時間の許す範囲で繊維物性について検討中の問題についても述べる予定である。